会員の広場	2023年3月1日発行メールマガジン第３２号

極寒の札幌旅行記

冬の一番寒い時期だったが、北海道に旅に出ることに決めた。
雪景色の街並みが見たかったのと、久しぶりに（10年以上ぶり？）飛行機に乗りたかったのと、北海道森林管理局に現在勤務している佐野さんが案内役を快く引き受けてくださったことが理由だった。地元の自然観察（&飲み）仲間の友人も同行してくれた。

初日に新千歳空港から直接余市へ。目的はニッカウヰスキー余市蒸留所の工場見学である。地元、柏市にも工場があるニッカウヰスキーは、子どものころ感謝デーに家族や親戚と出かけて楽しかった思い出がある。現在はノンアルで実施している感謝デーだが、昭和の頃はコップをもらいそれに好きなだけウイスキーやジュースを注いで飲むことができた。
余市蒸留所の見学ガイドツアーでは柏市の名前も出てきて感動した。しかも蒸留所の稼働日だったので実際に蒸留している工程を見学、石炭をスコップで力強く炉に放り入れている働く女性の姿が印象的だった。
そして有料試飲では数々の貴重な余市ウイスキーがずらり。もっと試飲したかったけど、流石にアルコール度数50近いものを飲み続ける力が足りず無料試飲＋有料試飲、6種類でギブアップ。おつまみがあればもう少し飲めたかも？（試飲コーナーにはチェイサーの水だけ、要注意！）
それにしても工場内は雰囲気のあるレトロな建物で、外壁に使われている石材が気になり、ガイドの女性に尋ねると「札幌軟石」で加工がしやすく風化に強いとのこと。旅のあいだ、小樽や札幌市内でも札幌軟石造りの特徴のある建築物を探した。

翌日は北海道大学で佐野さんと合流し、EzoLin-K(エゾリンク)の皆さんに北大キャンパスを案内していただいた。※エゾリンクとはポスドク（博士号を取得している学術研究員）の人達が研究成果の社会還元を目的に立ち上げた団体。
キャンパス内を流れる川はなんと河川再生事業で復活した川（サクシュコトニ川）との事。さすが研究者さんたち、解説の内容も一段掘り下げたものでとても楽しく雪の中を歩いた。その後の意見交換会では、私たちが自然観察会の中で取り入れている観察方法などを具体的にお伝えしたりした。
リーフアートアーティストのうけさんは、エゾリンクの皆さんに実際にリーフアートをレクチャー。好奇心旺盛なエゾリンクの皆さんは真剣に取り組んでいた。
「北大エルムの杜を探訪ツアー2023」
https://sdgs.hokudai.ac.jp/6330/

最終日は佐野さんのご案内で石狩湾沿いのカシワの天然防風林を案内していただいた。カシワといえば柏市の木にもなっているお馴染みの木だが、まさかこんな北の大地に、しかも天然林として存在する事にとても驚いた。雪深く、奥までは入って行けなかったが、カシワは海岸近くなるほど樹形が小さくなり海岸植生へと続いていくそうだ。今回は遠目でしか観察できなかったので、いつかまたこの地に来て海岸まで歩くことを目標にしたい。

その後、佐野さんの職場でもある北海道森林管理局へ。林野庁の漫画で森林や林業などを紹介する「北の森漫画」作者の平田美紗子さんと意見交換＆ランチ。意見交換では、近隣の小学校を対象とした授業支援プロジェクトの内容などをお話しいただいた。間近で小学校5年生向けに出張授業があるとのことで、森林や林業の事を楽しく伝えるためのクイズや、平田さんの素敵なイラストの入ったスライド教材を見せていただく。私たちも自然観察ちばで取り組んでいるSSNの活動などについて話し、子どもたちの記憶に残るような授業内容についてあれこれ意見を交わした。
「林野庁ホームページ　漫画で楽しく学ぶ森林・林業・木材産業の魅力」
https://www.rinya.maff.go.jp/j/tosyo/manga.html

ランチでは、平田さんオススメの森林管理局ちかくの「土鍋めし　ひなた」を予約してもらい限定三食の「最強の西京焼き」をいただく。土鍋で炊いた北海道米との焼魚とのコラボは最高！ぜひ旅行で近くに行った際には寄ってほしい。森林管理局のウッディホールも様々な木に関する展示が楽しく要チェックだ。（うけさんのリーフアートも展示中）
「北海道森林管理局　ウッディホール案内」
https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/rest/story/woody/index.html

午後は野幌森林公園を散策。カツラの巨木やトドマツ、ハイイヌガヤ、イチイ、ウダイカンバなどなど、たくさんの樹木と出会えた。佐野さんの解説で「アイヌ民族と樹木のかかわり」が随所に出てきて、先住民の生活に想いを馳せながら歩いた。野幌森林公園は大部分が国有林で全体面積2053haと、とてつもないスケール。今回はほんの一部のルートしか行けなかったが、アカゲラやシマエナガなど野鳥観察もできた。なによりも純白のパウダースノーの散策路を歩いたことが楽しかった。佐野さんは何度も雪にダイブして人型を作成して雪まみれになり、その後寒い寒いとずっと言っていた、、(^^;)
次回は季節を変えて訪れ、たくさんの葉をつけたカツラの巨木に会いたい。

「道立自然公園野幌森林公園／北海道ホームページ」
https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/environ/parks/nopporo-prefecturali-nationalpark.html

今回の旅は森や樹木や石や水（河川や酒を含む）をテーマに盛りだくさんの内容だった。
旅をコーディネートしていただき、さらに案内役までしてくれた佐野由輝さんに感謝！！

川瀬美幸　　（柏市）

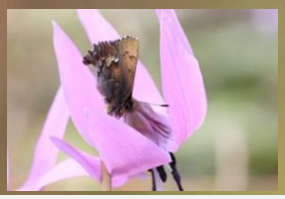
春の訪れを告げる蝶、コツバメ／ミヤマセセリ

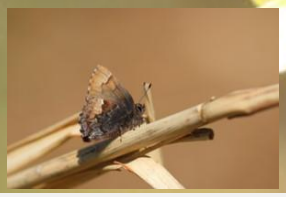
フィールドに待ちわびた春がやってきました。陽が長くなり陽射しも力強く感じて「厳しい冬を乗り切った充実感」で最高に気分が盛り上がります。気分が盛り上がる理由は、この季節だけ花を咲かせる林床の植物とこれに重なるように姿を現す蝶たちです。蝶たちとは、ギフチョウ、ヒメギフチョウ、ツマキチョウ、コツバメ、ミヤマセセリです。ツマキチョウ、コツバメ、ミヤマセセリは、千葉県内で見ることができます。

＜里に春がやってきた＞

＜コツバメ＞

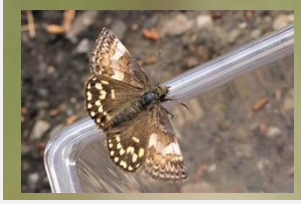
シジミチョウの仲間の中で最も小柄な蝶です。アセビやレンギョウの花との写真で小柄であることがわかると思います。毛深くて翅の裏の模様が迷彩なのは、早春に現れる蝶の特徴です。翅の表はとても美しいのに翅を開いてくれません。結果として、翅を閉じて止まる写真の山ができてしまいます。今年も翅を開いたところを見ようと粘ります。カタクリの上に止まった写真（中央）は、私のお気に入りです。とても可愛いです。

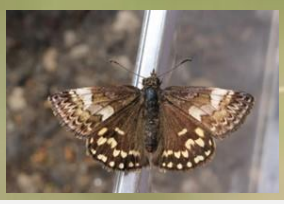




＜ミヤマセセリ＞

セセリチョウの仲間です。右の写真がオス、下の写真がメスです。メスの特徴は、前翅の白い帯と後翅の黄色い紋がオスと比べるとクッキリとしていることです。私には、メスの方が美しいように思えます。幼虫期間が長く幼虫で越冬し、早春に成虫となって登場します。とても興味深い生態なので飼育に挑戦したいムシの一つです。





＜お目当ての蝶に会えなくても春のフィールドは愉しい＞

ホーホケキョ！を BGM にして、「山野草のお喋り」と「ムシ（ツリアブ）の翅音」に耳を傾けています。

西野孝法（千葉市）

手を振り返す運転士

子どもが手を振るのを見て、大人が手を振り返す。観察会の行き帰りによく見る光景なので、気になっていました。

電車の車内から沿線にたたずむ親子、じっと見ている親子もいれば、盛んに手を振っている子どももいます。子どもが電車を見るためだけに大人がかり出されることもあるようです。電車が疾走する勢いを魅力的に感じるのでしょうか？電車や働くくるまなど動くものが好きな子どもは多いように思います。バス、消防車や救急車といった大きなくるまの場合は、じっと見えなくなるまで目で追いかけています。しばらくたたずんで面白いくるまが来ないかなと待ち受けている子どももいるように思います。

我が家の近くには JR 武蔵野線と新京成線が通っています、新京成線の線路際に子ども連れが立っていると、多くの運転士、車掌が手を振ってくれることに改めて気がつきました。同時に警笛を鳴らして応えることもあるようです。

子どもにとっては自分の存在が認められたこと、運転士、車掌とコミュニケーションできたことに満足するのでしょうか？運転士、車掌のやさしさに心動かされる一コマです。

先日、番組「サラメシ」で、新京成線社員の本社勤務の様子を映していました。入社して車掌、運転士、本社業務と所掌は変化しても電車、鉄道が大好きなことが分かる番組でした。きっとこの人たちは子どものころからの夢をかなえ、大好きな電車の運転士になったに違いないというストーリーが見える内容でした。

沿線で子どもが手を振る光景に出会うと、運転士が小さいころ同じように線路際で電車に向かって手を振っていた。その光景と重なるのではないかと思えました。

大きな塊が走っている鉄道はかつて「鉄は国家なり」「鉄道は国家なり」とされてきましたが、その時代は終焉し、新しい時代を迎えています。人や物資を大量に輸送できる機関車、電車は軽量化、節電化と変化しながら、これからも子どもたちの人気の的として、子どもたちの視線を一身に受け走り続けるに違いないと思うのです。

（松戸市　藤田　隆）

新京成線の電車と、見送る孫の足

洋のバラと和の椿

先月の会員の広場に寄稿された椿に関する話題をウンウンと頷きながら読ませてもらいました。
私もニキビ面のガキの頃から何故か椿に魅せられていましたので、今でも自宅の庭の主木は椿ですし、盆栽棚にも松やサツキに混ざって椿も数鉢あります。
一方、隣家の住人はバラ主体の庭づくりに励んでいて、和洋の庭が隣あって競っています。
バラと椿にはそれぞれ良さがありますので戯れに独断の星取表を作ってみました。互角の項目もあります。

比較項目		バラ		ツバキ
花の色彩	優	バラ色を主に白、赤、黄など多彩		赤、白、ピンクあり　黄色の良品無
花柄		単色が多い	優	斑入り、絞り。覆輪など多芸
香り	優	香水用の品種あり		ほぼ無香
花期	優	四季咲品種では晩春から初冬		園芸品種を揃えれば秋から晩春まで
切り花	優	需要多く栽培が盛ん		栽培、流通とも少ない
茶席の花		不向き	優	茶花向きの品種群あり
盆栽		まれにノイバラ、小輪園芸種を使う	優	肥後椿、侘助系、藪椿に銘木あり
葉		薄く艶無し	優	照りのある厚葉で常緑
枝　幹		株立ちで主幹なし　枝は棒状で棘	優	幹肌白く樹形整う
食用	優	花、ローズヒップのジャム		花のジャム、天ぷらは風流
飲用	優	乾燥花でローズティー		
オイル		ローズオイルは高級化粧品用		椿油は食用、整髪料
生垣		枝は疎でも棘は防犯効果あり		京都銀閣寺の高垣は有名
アーチ　トンネル	優	蔓バラを利用		椿林では自然のトンネル
防風林		落葉性の為不向き	優	海岸の潮風にも耐える
炭		原木とせず	優	火持ち良く良品
害虫		アブラムシなど		チャドクガ　カイガラムシ
病気		うどんこ病、八重咲は梅雨にカビ病		まれに煤病　花腐れ病
土壌適正		ほぼ問題無し		原種自生地に付き問題無し
気候適正		真夏の高温多湿に弱い	優	原種自生地に付き問題なし

私の採点で優の数を単純に比べるとバラ７、椿８、互角５となりますが、比べるべき項目は他にもあります。
項目の重要度の考え方にも個人差があると思いますから今回のお遊びは取りあえず引き分けとしておきます。

佐倉市　坂本　文雄

植物雑感『マンサク』・満作・マンサク科マンサク属・Hamamelis yaponica

春先には多くの草花や樹木に咲く花は黄色が多くあります。草では福寿草、たんぽぽ、菜の花等があり、樹木ではロウバイ、マンサク、ミモザ、サンシュユ、レンギョウなどあります。春先の色彩の乏しい山野では、黄色が目立つのです。春の花は、実は昆虫に気づいて貰う為に黄色の花を咲かせるのだそうです。春にいち早く活動を始めるアブの仲間が、最も敏感に反応する色だそうです。
今月はマンサクについて書きます。マンサクの名は、春一番に咲くので「まず咲く」という言葉が変化してつけられたと言われています。また、マンサク（万作・満作）はたくさんの花をつけるので、作物の豊年満作を占う植物として古くから親しまれてきました。そのことから豊年満作を祈願して名前が付けられたとも言われています。マンサクの花言葉「ひらめき」は、マンサクの花びらが細い線形にカールしていて、パッとはじけたように見えることが由来とされています。おもちゃのピロピロ笛のように花弁が巻き込んでいたのが、伸びていく開き方です。「神秘」という花言葉は、マンサクの木には神秘的な力が宿るとして占いに使われていたことからつけられたそうです。

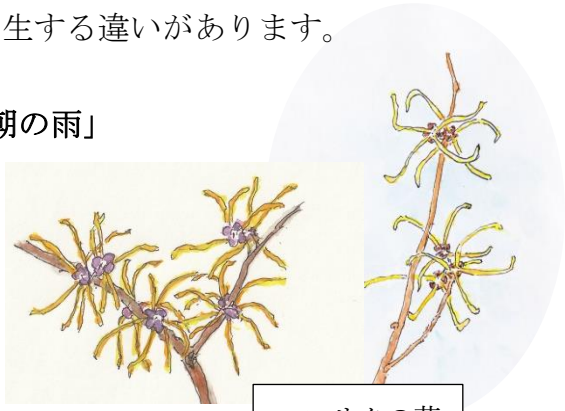
マンサクについては、山と渓谷社の「樹に咲く花」では、分布は関東以西の太平洋側に生育。山地のやや乾いた斜面や尾根の林内。落葉の小高木。花は 3～4 月、葉が展開する前に開花する。前年枝の葉腋から出た短い柄の先に黄色の花が数個集まってつく。花弁は 4 個、線形で長さ 2cm。萼片も 4 個、卵形でふつう暗紫色。黄色の葯のある雄しべ 4 個と小さな線形の仮雄しべが 4 個ある。暗紫色の小さな花柱も 2 個見えるとあります。
早春の花は開花期が長い、花粉を媒介する虫が少ないから。暗紫色はアブには肉を連想させる、かすかに肉桂の香りがするそうです。花は目の位置より高くあり、よく分かりません。

マンサクの別名に「ネジリキ」「ソネ」「シシハライ」などありますが、小枝はよくしなり強靭なので、ものをしっかり束ねるのに使かったから。シシハライは田畑に出没するイノシシを追っ払うのに枝葉を鞭のように使ったとあります。雪国で輪かんじきに使ったり、土木や建築の縄や紐として使われ、金属ワイヤーが普及する以前は護岸工事の蛇篭の網材に重用された。岐阜県で世界遺産になった「白川郷の合掌作りの家屋」では部材を組み合わせ、金属を使わない接合方法の材料として、マンサクの枝や樹皮を使っています。(日本有用樹木誌)
マンサクは色々な種類がありますが、よく目にするのにシナマンサクがあります。これは枯れ葉が翌年の花の時期まで残るのと、葉裏は綿毛が密生する違いがあります。

「まんさくや　小雪となりし　朝の雨」
水原秋桜子

小島紀彦（我孫子市）

フクジュソウ



マンサクの花